

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名 大正区

学 校 名 大阪市立小林小学校

学校長名 多田 直行

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・小林小学校では、第6学年 44 名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 今年度の平均正答率は、大阪市平均正答率と比べて、国語が6.6ポイント、算数が13.8ポイント低かった。
- 平均無回答率は、大阪市と比べて、国語が4.3ポイント、算数が7.7ポイント上回っている。
- 国語は、平均正答数が14問中8.2問で、約6割の児童が当てはまる。それに対して、4割の児童が平均正答数以下となっている。
- 算数は、平均正答数が16問中7.5問で、約6割の児童が当てはまる。それに対して、4割の児童が平均正答数以下となっている。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語の学習指導要領の内容では、「情報の扱い方に関する事項」は、大阪市平均と比べてやや上回っていたが、それ以外は大阪市平均との差が大きかった。特に、「書くこと」については、大阪市平均を14.9ポイント下回っている。問題形式別についても、記述式問題は、全国平均よりも17.8ポイント下回っており、書くことについての学びに大きな課題があると考ええる。

〔算数〕

算数の学習指導要領の内容では、どの領域も大阪市平均より低く、特に「図形」「データの活用」は、大阪市平均との差が大きかった。「図形」においては、令和3年度からは徐々に平均正答率は上がってきているが、苦手意識をもっている児童が依然として多いことが課題であると考ええる。

質問紙調査より

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問では、全国や大阪市の回答よりも肯定的な回答をしている。「算数の勉強は好きですか」「英語の勉強は好きですか」という質問では、どちらも全国の回答よりも肯定的な回答をしている。人の役に立つ人間になるためにも、将来に向かって算数や英語の勉強をすることが好きな児童が多いことがうかがわれる。しかし、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問では、30分より少ないと回答した児童が全国や大阪市よりも多い。学校では算数や英語を好きで勉強していても、家庭で勉強する習慣が身につけていないという課題が見られる。また、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問では、全国や大阪市の回答よりも肯定的な回答が低く、自尊心が低いことがうかがわれるため、自尊感情の育成は本校の課題として取り組んでいく必要がある。

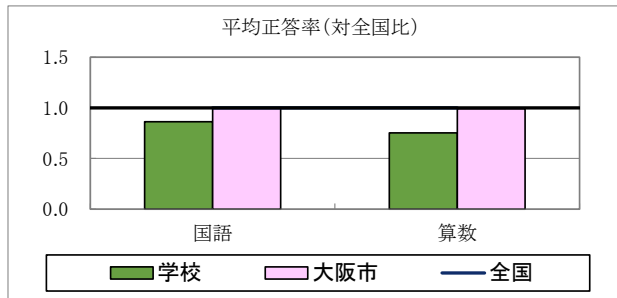
今後の取組(アクションプラン)

- 主体的・対話的で深い学びの推進
学校全体で授業改善を行い、児童が「わかる」「できる」喜びを味わわせるようにする工夫が必要である。児童が課題を見出し、自ら進んで解決策を考えたり、話し合い活動を充実させたりして、児童が考えを深める場の設定を行う。
- ICTを活用した教育の推進
発達段階に応じた学習場面において、デジタル教材を活用し、紙の教材とそれぞれのよさを適切に組み合わせていく。1人1台学習者用端末を効果的に活用し、個別の学びを充実させていく。
- 習熟度別少人数制指導・専科制の導入
現在行っている習熟度別少人数指導をさらに充実させ、スモールステップで確実に学力を身につけさせる。また、教員の専門性を高め、専科制にも引き続き取り組んでいく。

【 全体の概要 】

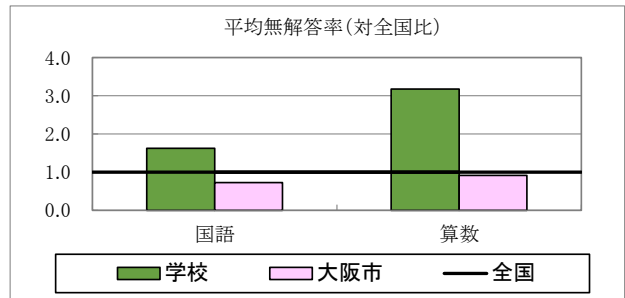
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	58	47
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	7.8	10.8
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



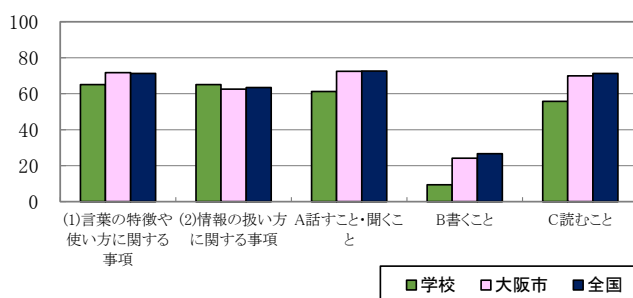
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	65.1	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	65.1	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	61.2	72.4	72.6
B 書くこと	1	9.3	24.2	26.7
C 読むこと	3	55.8	69.9	71.2

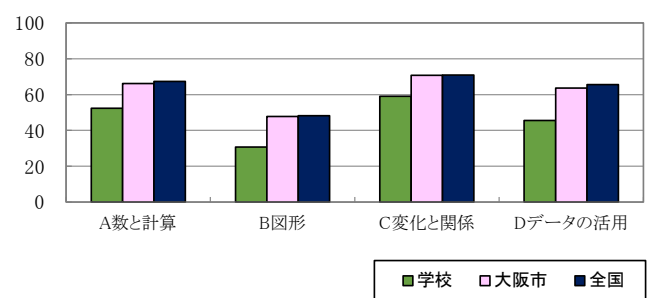
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	52.3	66.1	67.3
B 図形	4	30.7	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	59.1	70.8	70.9
D データの活用	3	45.5	63.6	65.5

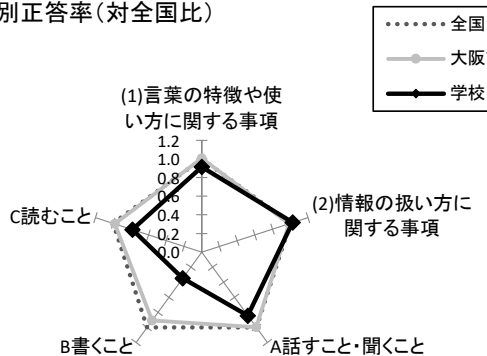
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



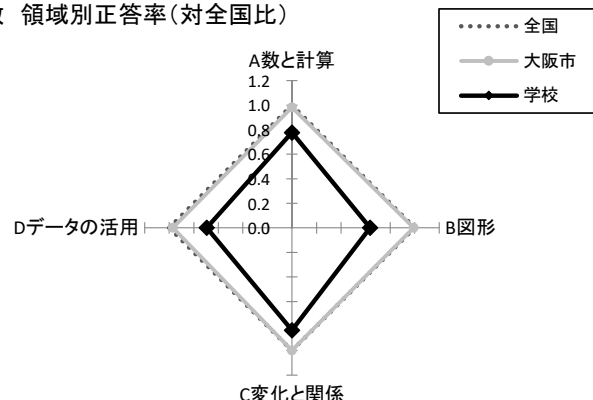
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)

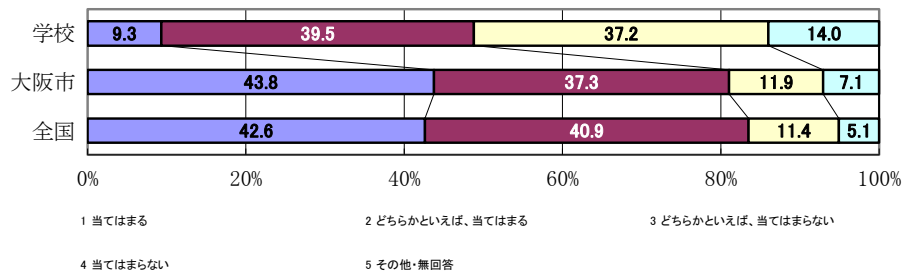


児童質問紙より

質問番号
質問事項

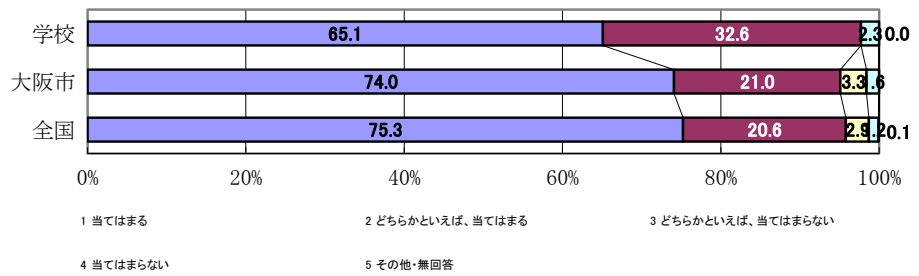
4

自分には、よいところがあると思う



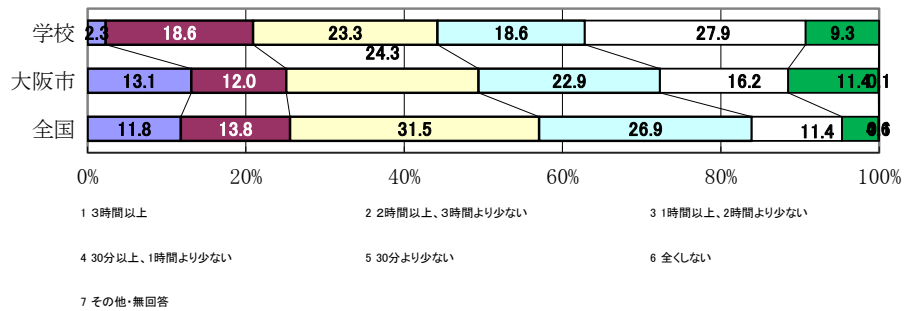
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



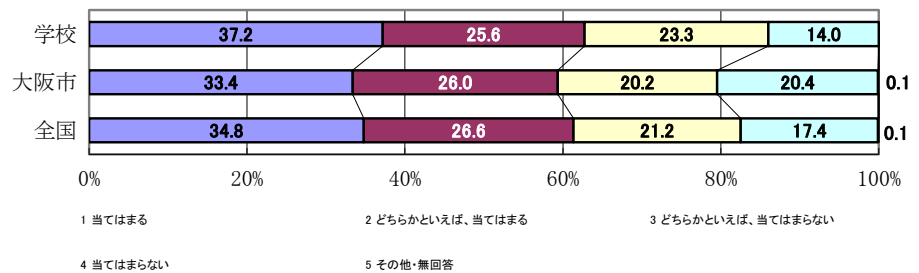
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



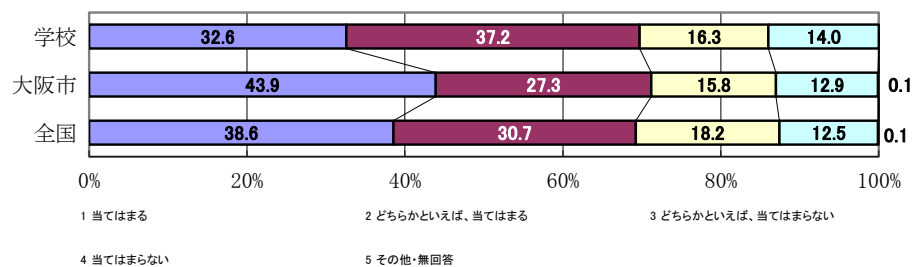
51

算数の勉強は好きだ



55

英語の勉強は好きだ



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

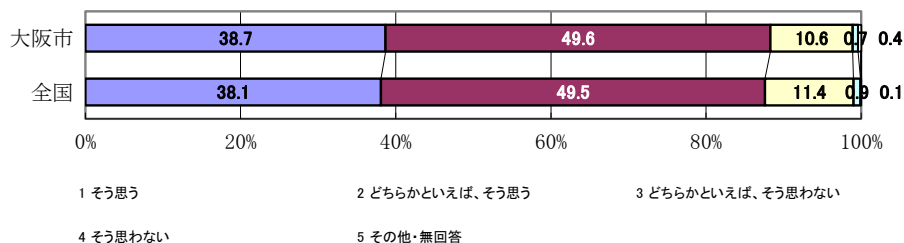
質問番号

質問事項

9

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

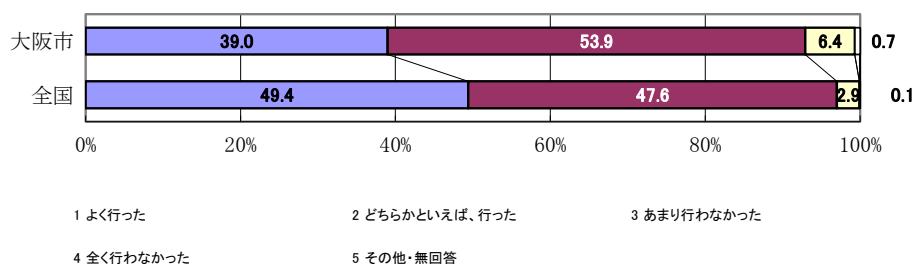
学校「そう思う」を選択



12

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

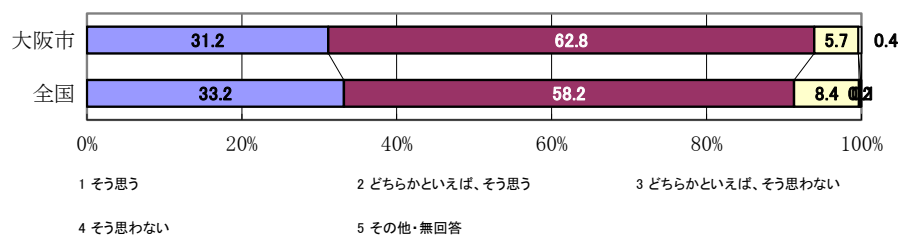
学校「よく行った」を選択



30

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる

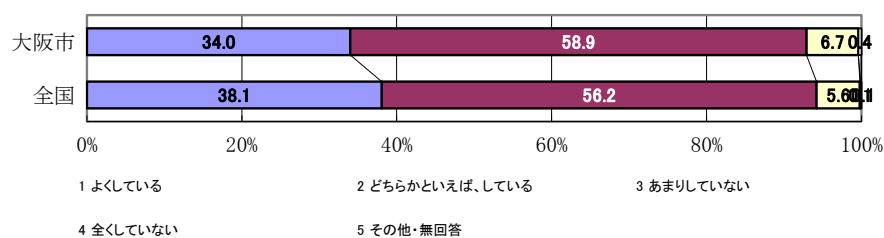
学校「そう思う」を選択



38

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている

学校「よくしている」を選択



39

調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っている

学校「よくしている」を選択

